

若松区のまちづくり 主な事業・取組

凡例



まちづくり団体やNPO等が主体となっている事業

市と他団体・企業等が協働で行っている事業

経済 「人と環境の調和により、新たな産業を拓く」

I 先進のまちを目指した新たなビジネスやイノベーションの創出

1 新たな産業の核となるエネルギー産業を創出するまちづくり



◆ 北九州市地域エネルギー拠点化推進事業

響灘地区における再生可能エネルギー（風力発電、太陽光発電）などの立地ポテンシャルの高さ、加えてスマートコミュニティの実証を通じたエネルギーを賢く使う省エネの知見などを活かし、地域の成長を支えるとともに、脱炭素で安定したエネルギーを供給することを目指します。

また、平成27年12月には、北九州市と民間企業の共同出資により、地域エネルギー会社「(株)北九州パワー」が設立され、市内で発電された脱炭素電力を市内施設に供給しています。

事業の開始時は低炭素でしたが、令和2年10月29日に本市として「カーボンゼロシティ」を宣言して以降、脱炭素に向けた取組を開始しています。



詳細：北九州市ホームページ

「北九州市地域エネルギー拠点化推進事業」 <https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kankyuu/00200086.html>

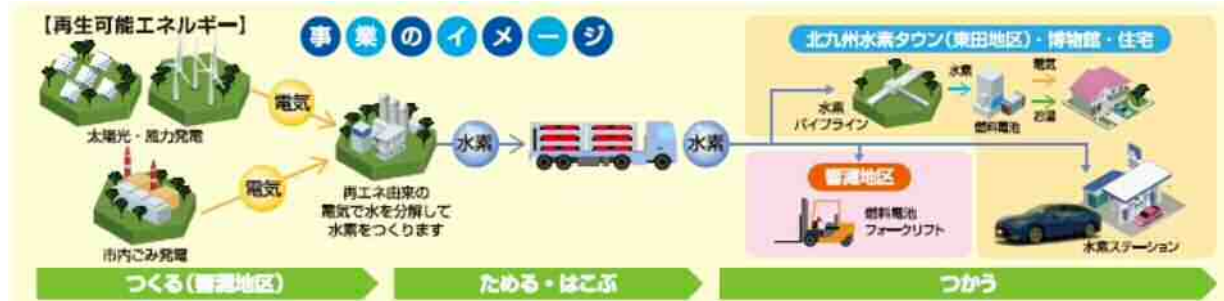
「北九州市のエネルギーマップ」 https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kankyuu/file_0355.html

【問い合わせ先：環境局再生可能エネルギー導入推進課 TEL 582-2238】

【水素社会実現に向けた取組】

水素は、利用時にCO₂を排出しないクリーンエネルギーであり、発電、産業、運輸など幅広い分野に活用される脱炭素社会実現のためのキーテクノロジーとして注目されています。

本市では、水素社会の実現を目指し、八幡東区東田地区の「北九州水素タウン」において、水素パイプラインを活用した各種先端技術の実証を支援するとともに、響灘地区に集積する再生可能エネルギーを利用してCO₂フリー水素を製造して、多様な用途に供給する環境省の実証事業を令和2年度から開始しました。

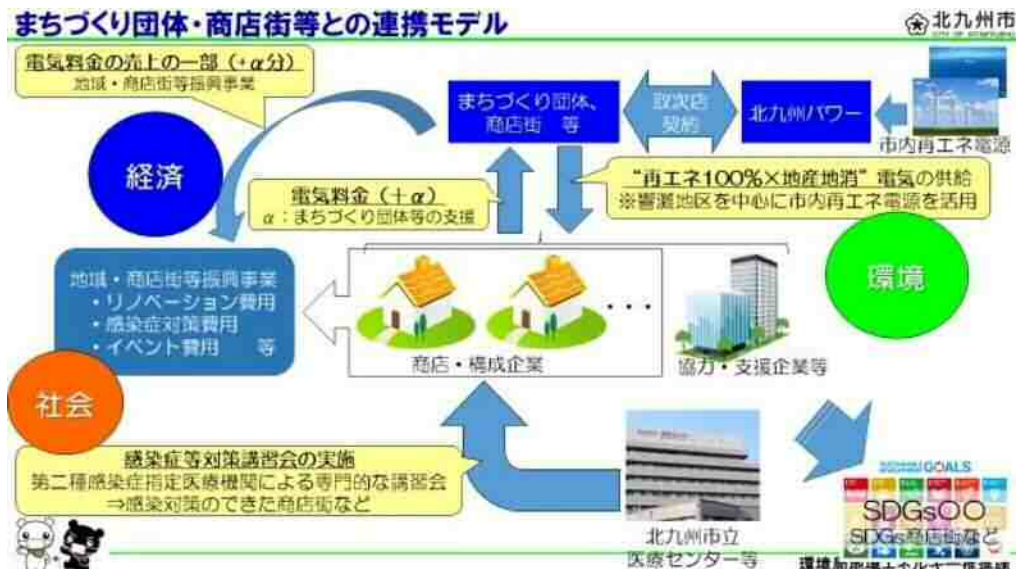


※ 本事業は、環境省の委託事業「既存の再エネを活用した水素供給低コスト化モデル構築・実証事業」の採択を受け、地域新電力である(株)北九州パワーを事業主体として、(株)IHI、福岡酸素(株)、ENEOS(株)、北九州市、福岡県などが共同で実施します。

【若松商店街と連携した脱炭素に向けた取組】

若松商店街の方々で設立した新法人「一般社団法人ワカマツREプロジェクト」が地域エネルギー会社の「(株)北九州パワー」の取次店となり、若松区の響灘地区に集積する再生可能発電所など市内の再生可能エネルギーで発電した再生可能100%電力を商店街の各店舗や取引のある企業などへ広げていく取組を始めました。

さらに、若松商店街は、「SDGs商店街」を標榜するために、取次店として得た事務手数料を若松商店街のリノベーション、イベント等の商店街振興に活用するほか、「NPO法人北九州地域感染制御チーム」や「北九州市立医療センター」が協力して感染症に関する講習会の開催など感染症対策を実施しています。



◆ グリーンエネルギーポートひびき事業

2011年、響灘地区の臨海部に、風力発電の関連産業を集積させることを目的とした「グリーンエネルギーポートひびき」事業を立ち上げました。

本事業の目標は、「風車の積出し拠点」、「風車部品の輸出入・移出入拠点」、「風車の運転管理やメンテナンスを行うO&M拠点」、さらに「風車の関連部品を製造する産業拠点」の4つの拠点機能を有する「風力発電関連産業の総合拠点の形成」です。

本事業は、3つのフェーズに分け段階的に進めています。

- (1) 響灘地区に風車の実証事業などを誘致する第1フェーズ
- (2) 響灘に大規模な洋上風力発電事業を誘致する第2フェーズ
- (3) 拠点形成に向け産業集積や市場開拓等を実施する第3フェーズ

第1フェーズについて、2013年に、風車の実証事業を公募し、その結果、「3.3メガワット級の風車2基」「5メガワット級の風車1基」「風車のメンテナンスのための倉庫兼トレーニングセンター」の誘致に成功しました。現在いずれも順調に運営されています。

第2フェーズについて、2014年に、わが国初の洋上ウインドファームを響灘の港湾区域内に誘致するための取組に着手しました。その後、2016年に事業者の公募を行い、翌2017年に、ひびきウインドエナジー社を事業者として採択しました。同社は、2023年3月に工事を開始し、2025年度中の運転開始に向けて、着実に事業を進めています。

第3フェーズについては、本事業の目標である「総合拠点の形成」に向け、現在、まず基盤づくりとして基地港湾の整備に取り組んでいます。さらに、産業拠点づくりとして、響灘地区への産業集積や、西日本地区におけるウインドファームの市場開拓などを進めています。



詳細：北九州市ホームページ

「グリーンエネルギーポートひびき事業」

→ <https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kou-ku/30300033.html>

「海洋再生可能エネルギー発電設備等拠点港湾（基地港湾）の指定について」

→ <https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kou-ku/30300034.html>

【問い合わせ先：港湾空港局エネルギー産業拠点化推進課 TEL 582-2994】

◆ 響灘東地区処分場整備事業

現在、市民生活・市内企業の活動に伴い発生する廃棄物や航路・泊地の浚渫土砂は、響灘西地区の処分場で受け入れています。受入のための空き容量が少なくなっており、新たな処分場の整備が必要になっているため、響灘東地区（響町二丁目地先）に、新たな海面処分場を整備しています。

処分場の面積は約38haで、令和9年度の完成を予定しています。

【問い合わせ先：港湾空港局整備課 TEL 321-5975】

2 北九州学術研究都市のまちづくり



◆ 北九州学術研究都市の整備



北九州学術研究都市は、アジアの中核的な学術研究拠点及び新技術の開発や新産業の創出拠点を目指し、平成13年4月にオープンしました。現在では、北九州市立大学国際環境工学部、九州工業大学大学院生命体工学研究科、早稲田大学大学院情報生産システム研究科、福岡大学大学院工学研究科や研究機関が一つのキャンパスに集積しています。

（公財）北九州産業学術推進機構【FAIS】では、地域に集積する大学・研究機関と産業界とのコーディネートを行い、産学連携による自動車やロボットをはじめ様々な分野における新技術の開発や新産業の創出を推進しているほか、アジアを中心とした海外の大学との交流・連携や留学生の支援など、グローバルな視点で教育・研究活動の支援を行っています。

これら学術研究機関の集積と合わせて、周辺の自然環境や都市環境を活かした良好なまちなみ形成に取り組んできました。

土地区画整理事業による基盤整備は平成30年度に完了し、小学校や市民センター等が新設され住環境が整ったことで、現在約1万人がこの地区に移り住み新しい生活を始めています。

また、若松区西部の消防・救急体制を強化するため、若松消防署ひびきの分署を新設し、平成30年7月1日から運用を開始しました。



【問い合わせ先】

『学術研究都市』産業経済局次世代産業推進課

『土地区画整理事業』建築都市局事業推進課

『消防分署新規整備』消防局総務課

TEL 582-2905

TEL 582-2469

TEL 582-3802

Ⅱ 新たな企業価値を生み出すSDGs経営の普及

1 先進的な取組を行う地域企業の情報発信



◆ 若松100年企業顕彰事業

若松には石炭の積出港として日本の近代化を牽引してきた歴史的な背景から、創業100年に及ぶ企業が数多く存在します。この若松100年企業は、明治から令和までの目まぐるしく変化する各時代において、先見の明をもって事業展開を図り、経済活動に取り組むとともに若松のまちづくりにも貢献してきました。その活動・業績は、これからの企業の在り方のお手本となるとともに、若松の歴史を学ぶ上でも貴重なものであり、若松の誇りでもあります。

本事業では、若松100年企業の紹介紙「若松レガシー」の発行など、100年企業の功績や理念、SDGsの実践内容などを紹介することで、シビックプライドの醸成と若松の未来を担う人材育成につなげ、今後のまちづくりに生かしていきます。

【問い合わせ先:総務企画課 TEL 771-3559】

